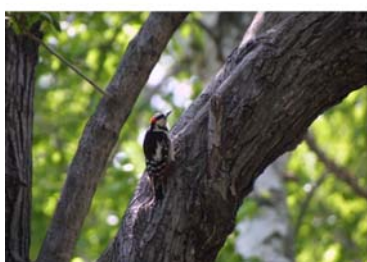


帯広駐屯地司令部庁舎の前の築山のハンノキに赤ゲラが巣作りしている。天然記念物のクマガラならばと淡い期待も抱いたが、一寸残念だけれども、赤ゲラも可愛いものだ。また、同所には、番（つがい）のエゾリスもいたが、片割れが居なくなっからは寂しそうにしている。再婚はしないのかな。

駐屯地内のひょうたん池は、高台にあるのに湧き水で満たされている。話によると蝦夷サンショウウオが居るとも。また、相当大きな鯉が、悠々と泳いでいるのを確認することが出来る。10 数年前、某が放魚したと言う代物である。



(師団司令部広報班員撮影)

(閑話休題)

自衛隊員の中には異能を持つ者も少なくない。文化的な分野においても少なからずの方が活躍している。絵画の分野で活躍された以下に述べる三名の画伯の内 2 名の方は、旭川及び第 5 師団と言う同じ部隊での勤務との縁があり、新出画伯には俱知安勤務以来御厚誼を頂いている。

帯広駐屯地の幹部食堂には桜木画伯の「十勝のあさやけ」が、師団司令部庁舎には松林画伯の「残照」他 5 点(平成 7 年当時に寄贈受け)が掲げられている。「残照」は、100 号の大作であり、釧路新聞郷土芸術賞を受賞したものである。画伯が、方面冬季戦技競技会参加時に富良野を経由した際、印象に残った芦別岳を描いたものである。全体の表現は心象表現の技法を用い、厳しい北海道の冬の生活を描いたものとの事である。感謝!

また、新出画伯は小生が俱知安駐屯地において頂いたこともあり、爾来格別のご厚誼を頂いている。更には、今年の第 5 師団としては最後となる「師団及び駐屯地の創立記念日」ふれあいアートの一環として画伯の水彩画の個展と隊員の作品と同時に展示することを計画している。

夫々の画伯について簡単に紹介する。残念ながら、小生には画風を紹介出来るだけの能力がないので、申し訳ない。皆さんには是非夫々の方々の作品に触れて感じ取って貰いたい。

● 新出紀久雄画伯 (1942 (S17) 年,小樽生まれ)

画伯は、1960 (S35) 年自衛隊入隊、職種は機甲、駒門の第一機甲教育隊、北恵庭の 104 特車大隊及び真駒内の第 1 1 戦車大隊に勤務された。戦車大隊勤務中の 1967 (S42) 年左目を失明されたのを機に、絵画制作活動を始められ、1,970(S45)年処女作が、日本水彩画展奨励賞を受賞、爾来、陸自幹部学校に勤務する傍ら創作活動を意欲的続けられ、英国ロイヤルアカデミー入賞、オランダ王立美術館展大賞受賞、ヨーロッパ選抜

大賞受賞、イタリア賞入賞等海外の作品展にも数多く入賞をされるなど国内外で高い評価を受けておられる。

左目を失明しながら、絵画に精進する自衛官としてテレビドラマのモデルにもなった事がある。

1996 (H8) 年檜町駐屯地業務隊 (曹友刊行事務局勤務) を最後に陸上自衛官を退官、土浦に住まいしておられるが、2002 (H14) 年からはクロアチア大統領府芸術顧問の立場にもあり、外国と日本を往復して活躍しておられる。

曹友会の機関紙「SO YOU」の表紙絵を平成3年から平成8年まで担任された。

昨年は鹿追町の神田日勝美術館で「新出紀久雄とその仲間達」の水彩画展を開かれ、その際に久々にお会いした。久々というのは、小生が連隊長の時に画伯に倶知安の記念日に来て頂いたことがあるからである。その後、銀座の個展に行っただけでも残念ながらお会いできなかった。

当地を何回か取材をも兼ねて訪問しておられるが、その際に懇談する機会あり、感銘深いお話を伺うことが出来た。一芸に秀でた方はどこかが違うものだ。

● 松林義則画伯 (1946 (S21) 年 鹿児島出身)

松林画伯は、1966 (S41) 年入隊、新隊員教育を終えて釧路第27連隊に勤務された。爾来同連隊及び駐屯地業務隊で勤務され、2000(H12)年3月1尉で退官された。この間、第一回陸上自衛隊中央大会 (駅伝) の第5師団の監督をもやっておられる。

1971 (S46) 年から油絵を独学で勉強され、翌年釧路美術協会展に初出品して初入選、翌年には、北海道美術協会展に初入選、1974(S49)年には、二科展に出品・初入選、爾来1981 (S56) 年まで連続8回入選の栄に輝いた。1978(S53)年と1994(H6)年には全自衛隊美術展で内閣総理大臣賞を受賞された。現在までに、個展10回を開催しておられる。

定年後は、釧路市に住まいして、日本全国の景勝地を旅行しながら風景画を書き続けておられる。釧路美術協会並びに北海道美術協会をそれぞれ脱会し、現在はフリーとして活躍している。

最近では、自衛隊父兄会の御好意により、釧路駐屯地司令の応接室に画伯の「湿原照映」を展示、お客さんに楽しんで貰っている。

● 故桜木稔画伯 (1933(S18)年徳島生まれ、2003 (H15) 年4月16日逝去)

桜木画伯は、1952(S27)年保安隊に入隊、爾来今は廃止されたが旭川第9普通科連隊で、部内外広報に一貫して携わってこられた。1986(S61)年11月に3尉で退官された。

画歴としては、1961 (S36) 年武蔵野美大商業デザイン科、1962 (S37) 年北海道保健衛生デザイン賞受賞。1974(S49)年北部方面隊美術展特選三年連続、1975 (S50) 年札幌東急で第一回油絵個展開催、旭川観光顕功賞・文化奨励賞等受賞、1997 (H9) 年には、台北高雄で個展、1998(H10)年には北海道知事賞受賞。画伯は、全国の色々な駐屯地に直接出向いて絵画制作・寄贈をしておられる。2002(H14)年度よりは、幹部の機関紙「修親」の表紙絵を描いて頂いていた。

画伯は、旭川冬祭りに協力中に人間ドック、3月埼玉での個展から帰旭後、入院薬石効なく膵臓がんのため永眠された。(合掌)

